



「本科」については、目を「思考力・判断力・表現力」に向けました。現行の授業枠では、やはり昔ながらの知識の詰め込みと問題演習が主となってしまい、今後入試のあらゆる局面で求められる「思考力・判断力・表現力」の養成が遅れがちです。そこで中学生対象の「本科」では、国語・数学を中心とした高度な思考力や記述力を求められる良問に時間をかけて取り組む、多教科横断型の授業を加えたいという現場の声に答え、既存の授業枠を改良します。現場の社員も、指導マニュアルや教材研究で負担を増やしてもぜひやっていきたいと燃えています。

こうした指導の方向性をよくわかっていただいたためには、ご家庭に対する真摯な啓蒙活動が大切です。世間の様子を見ますと、ようやく大手予備校なども説明会・セミナーに力を入れるようになってきたようです。しかし eisu ではここ数年、最高執行責任者の伊藤を先頭に、セミナーや説明会をほかに先駆けて熱心に行っていました。そういう業界の空気を eisu が数年前から率先してつくってきた、という自負もあります。単なる受験ノウハウや入試制度の情報提供に止まらず、教育の持つ経済的価値について問題提起したり、学力の本質や、AIの台頭する社会で通用する本格的な学力養成法を提案したりなど、業界を

「学習環境 日本一」「能動学習 日本一」 「実践英語 日本一」を目標とする eisu 55年構想を打ち出す

最高経営責任者（CEO）
山本千秋
eisu group
三重県津市

ピンチはチャンス!!
逆境こそ挑戦意欲も湧き上がる

eisu group 全体の業績（2018年5月度）は、おかげさまで売上高・経常利益ともども増収増益となりました（売上高前期比101.8%、経常利益100.6%）。ただ残念ながら、これは楽観できる数値ではないと考えています。というのも、基幹である進学塾部門だけを見た場合は、今年度は厳しい状態であったからです。私はこのことを、小学生・中学生を主たるターゲットとして営業してきた、これまでの進学塾という業態が構造的に抱えてきた課題だと受け止めています。それは確かに逆境ではありますが、「ピ

ンチはチャンス」という言葉の通り、何とかして成長への勝筋を見つけてやろう！という挑戦意欲も掻き立てられます。どんな塾も、小学生・中学生を対象とする基幹部門をお持ちだと思えます。eisu では三重県内の教育ニーズを鑑み、それを「特講」「本科」と呼ぶ二本柱で構成しています。「特講」は小学生の早い段階で高度な学力養成に取り組み、難関私立中学校合格から難関大学受験へと接続していくコー



まず「特講」では、中学合格から本格的な大学受験に取り組むまでの中1・中2を中心とする数年間で、生徒の取りこぼしが防がないという現実です。私はこれが悔しくなりませんでした。もちろん収益的にも痛手ではありません。しかしそれ以上に、せっかく子供たちを中学合格にまで導いたのに、大学受験ま

リードする情報発信活動に今後も傾注します。ほかにも、既存校舎の見直しや、施設の改修、人員配置の再考など、eisuの体質を強いのにするため、原点回帰の精神で、前

創立55周年を迎える2020年までの 「ミッション」「eisu55年構想」

一方で、基幹部門の改革とは別に、これまでの進学塾の枠には収まらない新しい道も模索しています。特に楽しみにしているのは、セイン英語ジムです。2019年度から、そのWEBコンテンツとGrammar学習とが、今までは比較にならないくらい一気に進化します。

今、注目のEdTech（エドテック：EducationとTechnologyを融合させた新しいビジネス）というキーワードに象徴される通り、対人コミュニケーションの積み重ねで価値を蓄積してきた民間教育と優れたIT事業が結びつければ、教育業界に新しい価値が生み出せるはずと信じてきましたが、デイビッド・セイン氏と私たちeisuとで開発してきたセイン英語ジムにおいて、このたびそうしたコラボが実現しました。

また、セイン氏とは「単語塾」という英語帳も企画・制作してきましたが、小学生を対象とする第1巻・第2巻に加え、2019年2月に晴れて英検2級・高校生ま

向きなりストラクチャリングを進めています。通ってくださる子供たちに「勉強したい」と思わせる環境を提供する、そして子供たちを本当にかこくする、そうした使命を力強く果たせる塾でありたいと思っています。

でを対象とする第3巻が上梓できる運びとなりました。これは単なる本ではなく、クイズ形式のアプリや音声データも含めた英語4技能育成教材と呼べる、塾や学校に最適化されたオンリー・ワンの教材になっています。このように、今までの進学塾の枠にとらわれない、新しいチャレンジのチャンスも貪欲に追求したいと思っています。

eisuは昨年、創立55周年を迎える2020年までのミッションとして、「学習環境 日本一」「能動学習 日本一」「実践英語 日本一」を目標とする「eisu55年構想」というメッセージを、あらゆる広報物にさりげなく提示しています。顧客に対してこのように宣言する以上、私たちはそれにふさわしい塾でなくてはならない、という自覚を喚起するためです。いま、進学塾としてのeisuが直面している課題は、確かに簡単に解決できるものではありませんが、こうした課題はおそらくeisuだけのものではなく、業界全体が直面している問題でもあると思うと、なおさら「何とかしてやる」という気概も湧いてきます。業界人皆が気持ちと力を合わせて、この時代を成長のバネにしていきたいのです。



新しいセイン英語ジムの学習画面例。スマートフォンアプリを使って、英語4技能を時・場所を選ばず、楽しく効果的にトレーニングできる。

ス、「本科」は小学生から基礎学力をしっかりと養い、難関公立高校受験へと子供たちを

導くコースです。しかし、これらは近年それぞれ課題を抱えるようになっていました。

二本柱の「特講」と「本科」、それぞれの課題解決の方向性

で一貫した指導やサポートをしてあげられないという、塾の役割を全うできていない現実からくる悔しさです。そこで2019年度に向けては、東進中学NETの活用方法を根本から見直し、専属担当者の充当、対象校の再考、付加価値となるクラス授業のあり方の見直しなど、多面的な改善に取り組んでいます。子供たち、親御様が安心してeisuに通っていただけるには何が必要か、そうした原点に返ったコース設計をするつもりです。

eisu group
eisu 小中部 eisu 高校部
nice
「セイン英語ジム/パズル道場 /eドリル」を主宰し、
子供たちの「能動学習」の推進に努める